

番号	上 かみ の句	下 しも の句	作者
30	門火焚き 昔日の念に想い馳せ かどびたきせきじつのねんにおもいはせ	我此処にいとと噎ぶ感涙 われここにいととむせぶかんるい	善巧方便
29	山粧う 日々の旅路を通るれば やまよそう ひびのたびじをとおるれば	朝日に照らされ照紅葉かな あさひにてらされてりもみじかな	あおち。
28	秋高し 天空に飛ぶカワセミが あきたかしてんくうにとぶかわせみが	春愁秋思を思わせられるな しゅんしゅうしゅうしをおもわせられるな	ともさま
27	初秋に 幽邃な場で 目に入る はつあきにゆうすいなばでめにはいる	楓や紅葉の 野山の錦だ かえでやもみじののやまのにしきだ	ともたか
26	早朝に ほのかに香る 秋の花 そうちようにほのかにかおるあきのはな	山吹色の 木犀花かな やまぶきいろのもくせいかな	とも
25	見上げれば 秋の葉揺れし 秋風よ みあげればそらからおりたけつしように	兎の月に 輝き星達 とのつきにかがやきほしたち	ノイール
24	金木犀 部活終わりの 疲れとれ きんもくせい ぶかつおわりのつかれとれ	正門通る 秋の夕暮れ せいもんとおるあきのゆうぐれ	りーふ
23	肌寒い 夜に輝く 満月や はださむい よるにかがやくまんげつや	眺め楽しむ 秋の一夜を ながめたのしむあきのひとよを	鈴
22	銀杏の葉 散り散りに 落ち紅葉出る いちようのは ちりぢりにおちもみじでる	冬が近けりや 紅葉も落ちる ふゆがちかけりやもみじもおちる	にやもっち
21	除夜の鐘 いつになったら 鳴り止むの じよのかね いつになったらなりやむの	早く鳴り止めうるさいな はやくなりやめうるさいな	ねむりのきつね